昭和二十一年十二月三日　夕刊　いわき民報　（火曜日）　第百八十九號
（第三種郵便物認可）　昭和廿一年六月一日

農業會關係の追放は郡下だけで三百五十名程度

公職追放旋風は既報の如く農業會關係にまで進展、會長、理事、幹事にまで及ぶものとみられているが一日開かれた濱三郡農業會支部長會議でも俎上にのり種々討議したが、三郡下の農業會長及び理事、幹事は資格審査の行はれるまで事務を繼續するものとみられてゐる、郡下では農業會關係で三百五十名が該當するものと豫想されてゐるが、現町村農業會長は左の通りである

吉田際記（泉）、高木善枝（渡邊）、古川傳二（植田）、秋山藏之助（山田）、鴨巒一（錦）、赤津庄兵衛（勿來）、荒川久馬（上遠野村）、鈴木爲吉（入遠野）、園部茂（川部）、綠川秀男（田人）、伊藤淺之助（飯野）、木田森之助（夏井）、藤谷久太郎（高久）、馬目常吉（豊間）、太湾左衛門（江名）、鈴木一男（鹿島）、長瀬彰義（小名濱）、大平正次（磐崎）、矢吹莊司（湯本）、根本貞治（内郷）、金成浅治（好間）、吉田萬吉（赤井）、平山柳藏（水戸）、永久保（澤渡）、佐藤庄太郎（神谷）、大平喜一郎（草野）、木村清治（大浦村）、長谷川西次郎（四倉）、吉田郁廣（大野村）、櫛田政松（小川）、永山忠二（川前）

小名濱町長の辭任正式認可

追放に當つた小名濱町長志賀要平氏はかねて辭表提出中のところ三十日に二十五日付で認可指令に接し正式に退職した尚公選まで長瀬助役が町長代理をする事となつた

會頭選擧の下相談

二日公會堂に有志議員會を

設立はしたものの會頭が定まら市内の有志議員の參集を求めて下相談を開き會頭決定を急ぐことになつた

（進めべく三日市公會堂日本間に

いわき民報
第三種郵便物認可
社報民きわい
一人三部（月額）金一円五拾銭
人行政費共
已定價千　人廣告料金
（除元日毎月但刊）
電話一〇二番　郵便振替一〇五番

公開迫る……
ライオンの監視
ウォーナーブッザース作品
3日より
内郷
第二イワキ

物價と賃金の平衡こそ急務

折角の妙藥も逆効果

諸橋貴族院議員質問演說

貴族院議員諸橋久太郎氏（交友倶樂部）は三十日の貴族院本會議に於て午前十一時五十分から約二十分に亘り交友倶樂部の代表質問演說を行ひ滿堂に多大の感動を與いた、殊にインフレ防止策が急速に實行に移されない結果却つて逆効果を見て居り、又再建日本の民生安定の爲めには鐵、石炭、石油、肥料、ゴム、綿花等の輸入が早急に必要であるが、これが輸入の爲めにはマ司令部に極力嘆願すべきだと詰め寄り滔々憂國經世の懸河の辯を振つて堂々貴族院議員としての貫録を示した、これに對し幣原國務相より約十五分に亘り概要左の如き答辯があつた、諸橋氏の演說概要左の如し

本議場に於て拜聽致しました總理大臣の施政演說は敗戰日本の重大危局を認識せしめ、世界の恒久平和を招來せしめんとする新日本の建設に對し未曾有の覺悟と決意を以つて感奮興起、勇往邁進せしむる体の政策は勿論、是れが實現化する處の勇氣と信念の缺除せるは甚だ遺憾である、如何なる政策を羅列しても實行力の無いものは空中樓閣に過ぎず、終戰後一ヶ年有餘を經過したる我國の現狀は果して如何、民生に少しも安定無し、平和日本の存亡を決しまする基本産業が未曾沈滯して止まる所を知らぬ現狀である、殊に惡性インフレの防止策は焦眉の急であつてその因つて來たる根源を絶ち切り物價と賃銀の平衡を保たしむる以外に良策なし、政府は財産稅の徵收とか擬性資本の整理、軍需補償の打切りとか財政上の一大手術を實施中であるが、如何せん時日を遷延、事毎に好機を逸しました結果、切角の起死回生の妙藥も發効せず却つて逆効果を來している、首相は又本壇上より再建日本の基本動力たる石炭の現狀に就いて悲觀すべき生産高を示し是れが對策に勞資の協調に工夫と努力の必要を力說されたが、政府は今以つて石炭の買上價格を決定しない、生産コストはかゝり放題の赤字經營で、これでは企業經理の合理化等は成り立たぬ、從つて企業全体が痲痺症狀を呈してゐる、是れは價格の決定が先決問題である、震は今後の施策に就いては御く迅速慮斷行施を國民に示し國は沈澱してボーフラの發生することなく民生を安んずると共に文化日本人として世界の大道を欣然として濶歩せしむる樣努力せられたい、何と申しても聯合國の御援助殊にマ司令部の一層の御支援を乞ふ以外に道はなく、首相は此の事に關し吾々は万全の策を講じ出來る丈の實蹟を擧げたる上に非ずんば懇請し得ずと申されますが食糧事情は勿論のこと、例へば國家再建に必要なる基礎産業物資即ち石炭を初めとし石油、肥料、ゴム、綿花等に至るまで足らざるものは足らずとして嘆願又嘆願、此の際非共し頂の膝を八重に折つても大いに努力して頂き度い、次に我國が今回一切の軍備を撤廢して戰爭を放棄し、萬世に太平を開かんとする日本民族がやがてその成果を嘗したる曉に於て我國に對し聯合國側が如何なる國際優遇の途を講ぜらるゝか、此の点承知して置き度い、防備なき日本は何を以つて安全保障の地位を確保し得るや、將來定に憂慮に耐へぬものがある、是又平和日本が宣言したる新憲法の反響如何にかゝること、思ふが、新憲法に對し米英中ソがどれ程の贊意と共鳴を示されたかを承知致し度い

幣原國務相

今日の日本は御承知の如く政府の施策が内閣のみで決定出來ぬ實情であり、各方面と連絡をとり色々の異つた意見の調和をはからねばならないので思ふように進まない又聯合國の援助についてもまづ援助を求むる前に自ら立たねばならぬ、斯ふした点で原料輸入についても簡單には行かぬ、國家の安全保障は國民の確固たる決意により世界の正義觀を味方としてゆくことが最もよいと思ふ、

▼農地改善推進……各郡に推進委員會をつくり急速に推進をはかる、日農及び農業會から役員を選出することに決定

▼職員待遇改善……本會で案

明三日から公開
待望のパラマウント社の名畫
最後の地獄船
平市　聚樂館　電470番

農村の工業化推進

濱三郡農業會支部長會議

濱三郡農業會支部長會議は一日午前十時から四倉町縣農磐城工場に開催、農村工業運營等その他について種々協議した

▼農村工業運營……縣農指定會頭問題について、三日有志議員を集めて追議する、何が故に惱みの種となつたか？振出しにかへつて今一度考ふべし

▼新しいとはいへ表面の形式だけで内容が舊態依然たるものであるのが、今回會頭選擧で暴露されたもの、一切を御破算に出直すのが最善の途と知るべし

▼農業會關係の公職追放だけで郡下でざつと三百五十名程度を數へやうといふ、結局各業界の舊陣營は根本から崩壊の一途を辿る、これも新しき生みの惱みか

▼諸橋貴族院議員インフレ對策は物價と賃金の平衡保持が急務と說く、眞極の言、爲政者よ！急速なる對策に乘出せ、

を練つて居り近く實施の目鼻がついた

▼農村工業運營……縣農指定工場は各郡一ヶ所平均あるが行く〳〵は町村農業會單位に設置、濱方部では漬物工場山間部では木工場、等經營の獨自計劃を樹てる

新民生委員辭令傳達式

四日懇談會も開く

生活保護法に伴ひ方面委員とかはり登場することになつた新しい民生委員への厚相から辭令傳達式は四日市役所で擧行終つて各種團体と新民生委員の懇談會も開催されるが市の新民生委員左の通り

【一般選出委員】

一區小野國次郎、二區白土正藏、三區閼傳清吉、四區石坂一雄、五區渡邊石一、六區星野久八、七區大谷武雄、八區松崎吉太郎、九區井上貞治郎、十區五十嵐雄二、一一區島辰次郎、一二區猪狩高喜、一三區大森勇、馬目誠、一四區吉木吉平、一五區篠村義衛、一六區小野金太郎、一七區佐藤伊太郎、松本充弘、一八區草野弁二郎、高田清二、一九區橋輝久、二〇區田久要吉、二一區高橋龜松、二二區有坂銀治、二三區石山信雄、阿部コト、二四區小野寛美、三村直次、二五區渡邊父、二六區根本一馬、二七區鈴木寶雄、二八區永井五郎、藤倉武雄、二九區根本貞良、三〇區鶴田廣隆、三一區鈴木寛一、三二區大山新太郎三三區鈴木利一、三四區吉田義久、三五區玉木鈴次郎、三六區三輪喜美

【職域代表委員】

遠藤心光、猪狩庄平、小松茂、桑原ナカ、清水廣政、金成キミ、大野友春、山崎菊子

いわき片言

▼惱みぬいた新生商工會議所、會頭問題について、三日有志議員を集めて追議する、何が故に惱みの種となつたか？振出しにかへつて今一度考ふべし

▼新しいとはいへ表面の形式だけで内容が舊態依然たるものであるのが、今回會頭選擧で暴露されたもの、一切を御破算に出直すのが最善の途と知るべし

▼農業會關係の公職追放だけで郡下でざつと三百五十名程度を數へやうといふ、結局各業界の舊陣營は根本から崩壊の一途を辿る、これも新しき生みの惱みか

▼諸橋貴族院議員インフレ對策は物價と賃金の平衡保持が急務と說く、眞極の言、爲政者よ！急速なる對策に乘出せ、

裁斷科生徒募集
婦人子供服裁斷法（期間）三ヶ月
入學日　十二月八日
受付　十二月五日より
平市古鍛冶町松堂院
シスター洋裁研究所
東京ドレスメーカー女學院出身　今井榮子

萬年筆大量入荷
岡萬年筆店
平三　電三九九

機械讓渡廣告
方サ式高速度萬能粉碎機新品二臺、旋盤（英式　四呎。三呎六吋卓上砲塔旋盤（六角型）二呎。卓上フライス盤（横型）卓上ボールベルト掛七吋。特殊卓上ボール盤ベルト掛二吋。錐盤四吋×四吋ベルト持ハンドプレース各種。空氣壓縮機（三氣筒型）糸鋸機。パワープレス（四號傾斜型）ルーツブロワー二吋。四吋。石機械安價ニテ讓渡致シマス御希望ノ方ハ御照會下サイ
福島縣平市田町五番地
第一通信工業株式會社
電話一〇二、九一一、六四七番

工員募集
一、四倉共榮土建
一、勿來築港工事
◇希望者は左記へ御來談を
平市月見町三〇
合作社共榮土建興業社

各種ミシンの販賣と修理
平警察署通り
三浦商會ミシン部
電八六四番

賣家
場所　湯本驛より十分
新築二階建（延廿五坪）
特に電話設備あり
上遠野局一一〇番へ

電話新設
九九六番
平市四軒町九
大野友春

引揚者磐城聯盟の夜間連絡は當方へ

電話開設
平九六〇番
草野ミシン商會
平市南町二九

先山の充足が必須問題

統計に徹く石炭増産の鍵

十月に於ける常磐地方の出炭能率は一人當り東部六、八六噸東北五、七七噸と言ふ全國最高位を示し遂行率も亦東部百六、三%、東北百、四%の好成績を納めたが半面廢棄關係に見ると雇入四百七十八に對し解雇五百八十三といふ數字を示してゐる、追加割當六萬九千五百噸に對し資材の確保と勞務者の充足に各炭礦とも懸命の努力を續けて居るが増産の鍵は果たして何處にあるか、ヤマの統計資料を東部石炭鑛業會に求めて原因を尋ぬ

▼出炭高（單位噸）

昭和十七年	三六、四六六	
同　十八年	三九、一九二	
同　十九年	二六、一七七	
同　二十年	一五三、七八	
同　二十一年	一九四、九五二	

（九月現在）

▼全勞務者數及能率

十七年	二〇、八七九	一〇、四
十八年	二三、七四	一〇、一
十九年	二七、五六〇	七、七
二十年	二〇、九〇〇	四、八
廿一年	二四	四九五　五、六

（九月現）

▼坑内夫數及能率

十七年	一九	四八　一六、七
十七年	二〇、九九	一六、一
十八年	二三、一	一三、三
十九年	二七、四	一三、四
二十年	二五、一	一五、〇
廿一年	二四、一	二、三

（九月現）

▼全坑夫に對する坑内夫比率

十七年	六三、〇
十八年	六二、二
十九年	六、四
二十年	五五、一
廿一年	四四、一

（九月現）

▼勞務者構成率

	一般	短期其他
十七年	八三、二	一六、八
十八年	七七、六	二二、四
十九年	五五、〇	一五、〇
二十年	八六、七	一三、三
廿一年	九、二	〇、八

（九月現）

以上の統計に見る如く勞務者の充足は緊急條件であるがそれと共に選練工の確保即ち先山の充足が必須の先決問題ではあるまいか、量と質の跛行性の破端は十九年度の例が極端に明示してゐる、とまれ増産の鍵は坑内夫の充足如何にあることを指摘してゐる

懇談會や標語募集

防犯旬間いよ〳〵實施さる

平署では一日から展開の防犯旬間に呼應して防犯思想普及に努める一方、各關係機關を動員して一斉取締りを實施することに決定、實施要項を左の如く決めると共に先づ一日午前十時から檢察局、司法保護團体、新聞社、學校代表、市役所、經濟會代表關係の參集をもとめて署會議室に旬間實施の詳細目について打合會をも開いて

實施要項

隣組回覧▼印刷物を作製して全戸に配布、防犯思想普及につとめる

標語募集▼市内にポスターを貼布、各學校兒童に呼びかけて標語を募る、優秀作品には賞品を贈る

防犯懇談會▼二日午后一時から各鑛山、工場事業場、漁業場玆に勞働組合長の參集をもとめて防犯懇談會を開く

▼三日午后一時から署會議室で交通關係興行主、遊館、料理屋、理髮業者、古物商關係代表の參集をもとめて防犯懇談會開催

▼四日午后一時から署會議室に物價監視委員の協議會開催

なお四倉、小名濱兩町では懇談會をはじめ種々對策を樹立數は有權者數に對しては郡内最高を占めて居る

一躍三倍强の増加

郡下の農地委員選擧有權者

改正農地法に依る農地委員會の選擧は後二旬に迫つたが、郡内有權者數は昨年の一世帯一人の擬家戸數に比して本年は有資格者が家族全部に該當するので一躍三倍强に増加、地方事務所の集計に見ると自作が最多で四割八分の二萬四千三百八十一名次いでは小作の二萬二千百四十四名で地主は僅か一割にも滿たぬ四千六百六十二名の計五萬一千百七十七名で前年より三万五千七百四十四名の増加である、尙一日から三日迄縱覽期間を經て多少の増減ある見込である

有權者數の町村別は

首位は小名濱町

郡委員選擧有權者名簿縱覽期間を前に集計された郡内の各町村別有權者の町村別をみると總數のトップは小名濱町の二千八百三十二名、又自作では永戸簑輪村の一千三百三十二名、小作で七名となつてゐる

泉村二、〇二二、渡邊村一、〇六七、植田町一、九九一、山田村一、四五四、錦町一、八〇一、勿來町二、一三三、上遠野村二、〇八一、入遠野村一、二三九、川部村一、二三九、田人村一、八〇三、飯野村一、六〇六、夏井村一、四一五、高久村一、三六一、豊間町一、一三五、江名町八五二、鹿島村九六四、小名濱町二、八三二、磐崎村一、七一一、湯本町六五二、内郷町一、八二一、好間村一、八八七、赤井村二、〇六九、永戸簑輪村一、八一一、澤渡三阪村一、五六八、神谷村一、四九二、草野村二、二二一、大浦村一、九一五、四倉町一、二五〇、大野村一、八六七上下小川村一、九〇七川前村一、三四七

平市の有權者

平市の農地委員選擧有權者は二千六百四十名、自作一千八十九名、小作一千百名、地主四百五十一名で一戸平均三人强で地主は郡内最高を占めて居る

新設

◇小型自動車修理部

ダットサン　ダイハツ　マツダ　くるまがれ

平發發電前通り

三浦商會　電八六四番

映畫館を利用

觀客へも

主食の横流しは斷乎たる處分で

別項防犯旬間に呼應して平署では防犯懇談會を開く一方、主食の横流し等嚴重取締りを行ふことなつたが、市内四常設館をも利用して觀客に呼びかけて犯罪防止に民間の協力をもとめることになつた

灰皿

▼……三十日ひるさがり〝旅の一員〟から富山平驛長宛一通の葉書が舞ひ込んだ、内容は

▼……廿八日のこと市内の見物を終つて十時二十分發の郡山行列車のなかにポカンとしていたとき、和らかい音樂が流れて來た

▼……私はいまゝでの疲れを忘れたやうな氣がし、うるはしい驛員の方の心やりに唯感謝の心で一杯でした

▼……あんなうるはしい心づくしに會つたことは少ない

▼……新しい日本、明朗な日本はそんなところから築かれて行くやうな氣がする

▼旅の一員としてうれしさの余り感謝の心の一端を——

▼……驛長さんしつかり〳〵

寒さの御用意！

實用屏風

二枚折、六枚折、枕屏風各種入荷致しました

あらゆる百貨問屋

平市六丁目大通り

さかいや商店

新設電話四八五番

映畫紹介

——東寶作品——

これは失禮

三日から世界館で

素人迷探偵となりすまし、冷凍人間に成りそこなつたり、殺人鬼に間違はれたり、探すはずの盜難事件もそつちのけの爆笑篇——例の秋田實の原作、岡田敬の脚色監督、吉野欒治のキヤメラといつたもの

【キヤスト】

肉屋主人　花菱アチヤコ

雇人　横山エンタツ

米屋主人　生方賢一郎

同　娘　高尾光子

魚屋主人　小坂信夫

同　女房　清川虹子

同　小僧　大村千吉

酒屋主人　市川朝太郎

同　中僧　伊藤薫

雜貨屋奥さん　三條利喜江

八百屋主人　三島雅夫

チンドン屋　神田敬治

同　西條英一

【梗概】

場末の旭市場の共同金庫が誰かの手で開けられて大金が紛失した。その金庫の鍵は米屋の主人が持つてゐて、その主人の姿が先刻から見えないので種々の取沙汰が行はれてゐるのだが、肉屋の雇人エンタツは多年研究した探偵術を試すのは今とばかりに大活躍するその結果先づ犯人は鍵を用ひてゐる点からも際手を知つてゐる点からも、必ず市場内部の者に相違ないと認定し人々の出入を絶對禁じて了つた。魚屋の主人や、八百屋の主人等は不平顔であるが、エンタツ君は探偵振りもあざやかに金庫部屋の戸に指紋を發見した。肉屋の主人アチヤコ氏は、雇人エンタツ君の頓馬振りを叱りながらも、これも幾分ハーちやんでエンタツ君の失敗の片棒擔ぎをしてゐる結果にばかり成るのだつた。エンタツ君は天眼鏡を持ち出して仔細らしく皆の指紋を取つて調べても遂ふので小言をかしげた。アチヤコ氏が自分の指紋を未だ調べないぢやないかと云はれて氣がついて調べると、何とピタリと同じ指紋。皆はあきれて引き上げる。それからいろ〳〵失敗滑稽の後、エンタツとアチヤコは犯人を追つて行くのだが……。

映畫紹介

——パーマウント作品——

最後の船獄地

三日から聚樂館で

〝暗黑街の女〟〝希望の船〟七日間の休暇〟等で活躍してゐるジョン・ファロウが監督に轉じて製作したもの、脚色はセント・アイ・ミラー及びジョージ・ブルース、原作はリチヤード・ヘンリイ・ダナといつたパラマウント提供の海員法の成立に絡む颯快海洋劇、主演は〝借物〟〝宵いダリア〟等に出演してゐるウイリアム・ベンディクスが活躍してゐる外！エイブ・リンカーン〟に出演のハワード・ダサリヴア・ラン等の新人エステル・フエルナンデス等が助演してゐる

【キヤスト】

チヤールス・スチユワート

アラン・ラッド

マリア・ドミンゲツツ

エスター・フエルナンデス

リチヤード・デイナ

ブライアン・ドンレヴイ

アムジーン

ウイリアム・ベンディツクス

ドウレイ

バリー・フイツジエラルト

トムプソン船長

ハワード・グ・シルヴア

【梗概】

一八三四年ボストン——カリフオルニア間を百三十日の新說錄で走つてボストンに歸港したゴードン・スチユアート所有の帆船ビルグリム號は、新しい貨物を積み込むや、翌日再び第二次の航海に出帆する、船海に出た船の中の船長の下級船員に對する取扱ひは、冷淡苛酷を極め下級船員の憎惡の念は日と共に激して行く、彼等の中には、船主の息子のチヤールス、前航海中兄を失つたディナ、人の良い料理人ドウレイ、密航者少年サム等が居る

冷酷な船長の、下級船員虐待を見るに見兼ねたチヤールスは身分を明して、船をボストンに戻すことを船長に提言するが、船員としての身分を嚴守すべきことを餘儀なくさせられる、前航海中兄を失つたディナは、此の船の航海中凡ゆる出來事、船員の取扱ひ等を世に出し改善せんと企圖し具さに記錄して居る

聽て船中では、新鮮な野菜其他の食物が不足し壞血病に見舞はれる者が出て來る、船はペルナンブコに寄港、マリアとドミンゲスと其の召使ひメルチユデスの二人の婦人が乘込む

チヤールスは、マリアに興味を感じるが、船中の上下の對立下級船員の食事問題は、益々日と共に激化して行く、遂に我慢の出來なくなつたチヤールスは叛亂を起すが、目的を達せず捉へら船底に幽禁されて了ふ、マリアは、人知れずチヤールスの許へ自分の食事を運んでやる

聽て船は、モントレーに碇泊し、チヤールスは懸命なマリアの情愛にもかゝわらず同地官憲の裁判に付せられることと成つたが、船員達は遂に反抗的氣勢を示し、チヤールスをひき出し船長に復讐せんものと、本船に歸り、大格闘を演ずるが、船長はブラウンと共に相打ちとなつて死んで了ふ

船がボストンに歸港するや、彼等は暴逆と叛亂罪の名に依り投獄されるが、聽て出版されたディナの日誌を讀んだ公衆は、眞實の正しい批判を與へ、彼等は釋放される

そして上院は、商船乘組員の人權擁護の爲の最初の法律「海員法」を通過せしめたのであつた